

北佐久地方で採集された大正時代の植物標本

橋渡勝也^{1)*}, 友野増夫²⁾, 中山厚志³⁾

1) 佐久市立中佐都小学校

2) 佐久市立中込中学校

3) 佐久市立中込小学校

I はじめに

長野県佐久市岩村田にある佐久教育会館は、平成20年5月に新佐久教育会館として建て替え開館する予定である。そして、現会館閉鎖に先立って、平成19年1月19日に図書や資料の引っ越しが行われた。筆者らは、収蔵庫の植物標本の整理と仮保管を委託された。

本報告は、大正時代を中心として集められた植物標本の紹介と、採集当時の状況について考察したものである。

II 現存する植物標本

(1) 標本の状態, ラベル

標本は白色の台紙に貼られている。保存状態は極めて良好で、若干の虫喰いはあるものの、ほぼ完全な状態である。右下にラベルが添付してあるが(写真1)、データを台紙に直接書き込んだものも若干ある。植物は帯紙でのり付けされ、枝などは糸で固定してあり、大変丁寧に作製されている。ラベルは Herb. Kitasaku Kyoikukai., Herb. Kijuro Chino Kyowa kitasakugun

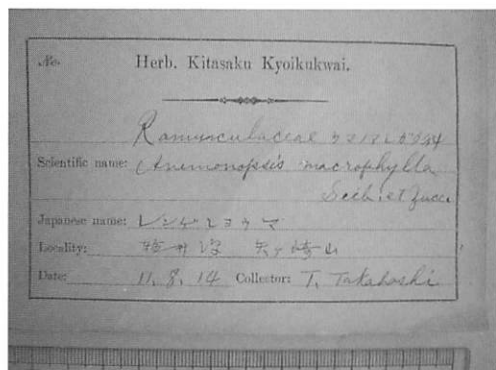


写真1 標本ラベル (一例)

11. 8. 14は大正11年8月14日、採集者により西暦表記もあり。

* 橋渡勝也 〒385-0025 佐久市塚原808(中佐都小)

Shinano Japan の2種類が認められる。項目は Scientific name: Locality: Date: Collector: の4つで、このスタイルは牧野富太郎博士専用ラベル¹⁾と同じである。学名のほか科名、和名(異名を含む)、採集場所、採集年月日は漢字及び片仮名、採集者はローマ字で表している。研究資料としての情報が漏れなく記入された優れた標本である。

(2) 採集年代と標本枚数

採集年代別の標本数は表1の通り。1907年(明治40年)~1929年(昭和4年)のものがある。中でも、1920年(大正9年)~1926年(大正15年・昭和元年)に集中している。年月日未記入、不明のものを合わせて、合計1, 869点にのぼる。

(3) 科別標本数

ラベルに書かれたままの科名(漢字と片仮名)を集計すると、ウラボシ科: 191, イバラ(薔薇)科: 159, ユリ(百合)科: 121, ラン(蘭)科: 88, ウマノアシガタ科: 84, マメ科: 76, カバノキ(樺木)科: 66, ユキノシタ

(虎耳草)科: 60, シャクナゲ(石楠花)科: 58, タデ(蓼)科: 58, スミレ(堇々菜)科: 56, 繖形科: 55, カヘデ(槭樹)科: 52, マツ科: 48, アブラナ(十字)科: 33, ケシ(毛茛)科: 33, イラクサ科: 26, サクラソウ(櫻草)科: 22, 科: 21 (以下略) などとなっている。

(4) 採集地

採集地は北佐久地方全域に及び、特に浅間山、蓼科山での採集品が全体の30%を占める。また、協和村産

表1 採集年別標本数

採集年	標本数
1907	1
1908	2
1912	2
1914	1
1919	4
1920*	249
1921	455
1922	174
1923	134
1924	237
1925	212
1926	311
1927	8
1928	4
1929	2
未記入	71
不明	2
合計	1869

* 大正9年

が464 (25%) と多いが、採集者の一人千野喜重郎氏が協和村高呂の生まれであることから、地元をよく歩いて採集したことによるものであろう。

(5) 採集時期

採集は4月～12月の雪のない時期すべてにわたり、標本数は、6月：458、8月：422、5月：334が多い。

(6) 採集者

8名の採集者が確認できる。内訳は、T.Takahashi 924 (高橋貞吉²⁾)、K.Chino 857 (千野喜重郎³⁾)、B.Ogiwara 15 (荻原武平)、Z.Ohinata 9 (大日向全龍⁴⁾)、Nakajo 1 (中條正勝)、H. Omori 4 (大森久⁴⁾)、J. Hasizume 1、H. Yamada 1 (ローマ字表記はラベル記載とおり、漢字名は筆者の推定による)

III 標本の植物 (一部紹介)

1. 869点の植物標本の中には、現在は見られないが当時生育していたことを証明するものが何点がある。その一つエンピセンノウ (ナデシコ科) を紹介しよう (写真2, 3)。ラベルには、「*Lychinis wilfordi* エンピセンノウ、ハウテンクワ、エンピセン；春日村；1927.8.25；K.Chino」とある。この地域の状況について、『望月町誌自然編』⁵⁾では「望月では協和の山間の湿地に何株か、自生し花をつけていたが、1992年訪れた時は、土手の工事がなされていて湿地がつぶされていてエンピセンノウは見られなかった。他に産地がないので望月町では絶滅とも考えられる。」とある。植



写真2 エンピセンノウの標本
(春日村, 1927.8.25 K.Chino 採集)

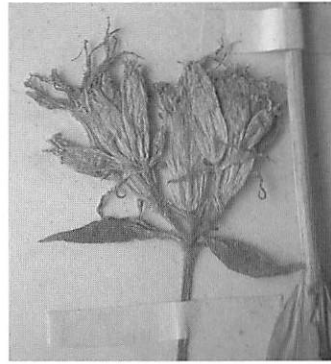


写真3 花の部分拡大

物の消長を知る上で、標本の価値は限りなく大きい。

IV 標本作製の背景

標本の採集年が集中している1920年 (大正9年) ～1926年 (大正15年・昭和元年) の北佐久教育会の出来事について、『北佐久教育會五十年史』⁶⁾によると、大正9年に、5か年継続事業として郷土理科資料調査を理科委員 (植物部：高橋貞吉、林丈作、千野喜重郎、荻原武平、小林好郎、尾臺勝三) への委嘱があり、大正10年に植物部では、浅間研究会の開会を期として合同して牧野富太郎博士の指導の許に植物採集を行ったとの記述がある (後述)。大正13年にはこの事業が終了したが、14、15年度も予算が充てられ植物目録原稿を作成したとある。その後、昭和5、6年と植物目録出版準備が進められ、昭和7年植物目録完成、昭和8年5月に信濃教育會北佐久部會編集『長野縣北佐久郡植物目録』⁷⁾が出版された (写真4)。以上のことから、植物標本は、この事業のために集められたものであることが判明した。なお、出版までの経緯については、この目録の緒言⁸⁾に詳しい。

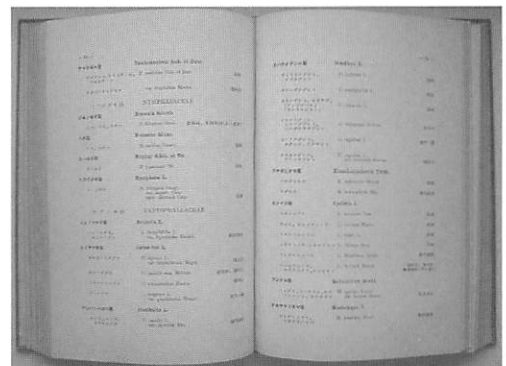


写真4 『長野縣北佐久郡植物目録』 (昭和8年)

V 大正10年の浅間山講演会

1921年（大正10年）8月3日、牧野富太郎博士を招いて行われた浅間山講演会（植物採集）の様子について、主催者側の記録と牧野博士の日記を対照させてみた。『明治大正小諸教育五十年史』⁹⁾によると、「大正十年八月の浅間山講演会は、（中略）正木校長が会長となり、私（林勇）と実科高女（現小諸高校）の高橋貞吉とが幹事として奔走したものである。」とある。そして、同史のグラビアに当時を物語る写真が1枚掲載されている（写真5）。

一方、『植物採集行動録 明治・大正篇』¹⁰⁾にまとめられた牧野博士の日記には、前日に小諸に入り、当日出発を前に記念撮影をしたこと、登りはじめて雨が降ってきたことなど、当時の具体的な行動や、地元の方々との交流の様子が名前を挙げて書かれていて大変興味深い（註参照）。

VI おわりに

筆者3名は佐久教育会¹¹⁾会員であり、友野、中山は本年度地域研究委員（植物）（通称「植物委員会委

員」）を委嘱され、橋渡は講師の一人として会に参加している。この委員会は、「佐久地方の植物分布の調査研究をし、児童・生徒の教材に資する」ことをテーマに掲げ、年4回の植物調査と外部講師を招いての植物講習会を開催している。

今回の植物標本の整理と分析によって、今日の植物委員会の源流をたどることができた。当時の精神は、その後も教育会に生き続け『信州佐久の植物』の刊行（1975年）などに受け継がれている。このように多くの先輩が、物が十分になく、交通事情が悪かった中、最先端の研究を旺盛に吸収しながら、郷土の自然を究明し教育に反映させようとした情熱に改めて学びたいと思う。私たちは、佐久地方に現存する植物の状況を、地道に足で歩く方法でさらに調査研究するかたわら、残された貴重な資料を後世に伝えていきたいと決意を新たにしている。

謝 辞

今回の標本整理、分析に当たって、次の方々から貴重な助言や資料提供をしていただいた。記して御礼申し上げます。



写真5 浅間山講演会の植物採集

牧野富太郎氏は中央。（『明治大正小諸教育五十年史』より転載）千野喜重郎氏：前列左から2番目（佐藤邦雄氏私信）、山崎林治氏：前列左端（柴野武夫氏私信）。わらじ・きやはん姿の中に、みの・すげがさ持参の人が見られる。空模様が怪しくなっていることを伺わせる。

長野県植物研究会会長中山洸先生、軽井沢町植物園名誉園長佐藤邦雄先生、平成19年度佐久教育会会長森山隆夫先生、佐久市教育委員会教育長木内清先生、小諸市教育委員会教育長小山紀夫先生、「山崎林治先生の会」柴野武夫先生（安曇野市三郷）。

引用文献・註

- 1) 佐竹義輔監修, 中村浩編 (1982) 牧野富太郎植物記 8 植物採集. あかね書房, 79
- 2) ホッチスミレ (スミレ科) の発見者。1923年 (大正12年) に西長倉村 (現在軽井沢町) 発地原で採集した〔佐藤邦雄監修, 軽井沢町教育委員会編集 (2005) 軽井沢町植物園の花, 120.〕。
- 3) タテシナヒメスゲ (カヤツリグサ科) の発見者。1924年 (大正13年) に蓼科山で採集した〔佐久教育会編 (1975) 信州佐久の植物, 14.〕。茅野氏は, 〔北佐久教育会編 (1955) 北佐久郡志第一巻自然篇, 第七章植物, 417-504.〕を執筆している。
- 4) 北佐久教育会編 (1955) 北佐久郡志第一巻自然篇, 第七章植物, 四節北佐久郡植物研究事情, 486. によると, 「明治三十年代, 大日向全龍, 林丈作, 大森久の諸氏は, (牧野富太郎博士のもとに) 馳せ参じて千葉県国分台辺りまで出向して親しく其の指導を受け, (略) 採集して植物腊葉標本を作り, これを牧野富太郎先生に送って鑑定を請い (略)」とあり, 並々ならぬ意欲が感じられる。なお, 大森久氏の採集品は1907, 8年採集のものである。
- 5) 望月町誌編纂委員会 (1994) 望月町誌第一巻自然編, 449.
- 6) 北佐久教育会 (1938) 北佐久教育会五十年史, 170-178, 186-188.
- 7) 信濃教育会北佐久部会編纂 (1933) 長野縣北佐久郡植物目録, 79. には, 「エンピセンノウ, ホウテンクワ, エンピセン L. Wilfordi Maxim. 蓼科山, 春日村, 軽井沢町 (千ヶ瀬)」と記載があり, 標本ラベルに記された情報が編集に反映されている。
- 8) 信濃教育会北佐久部会編纂 (1933) 長野縣北佐久郡植物目録, 1. 緒言には, 「大正9年本會ハ郷土研究ニ着手シ (中略)。本目録ハ右植物部研究ノ結果ニシテ本郡植物分布ノ状態ヲ明ラカニシ, 且ツ本目録ニ相應ズル植物標本三組ヲ作製シ之レヲ郡内樞要ノ地 (小諸, 岩村田, 望月) ノ三ヶ所ニ配置シ, 地方植物研究者ノ便ニ供シ, マタ郡内中小學校理科教授ノ参考ニ資センコトヲ目的トシテ編纂シタルモノナリ。本調査ハ大正九年ニ始マリ昭和二年ニ終ル。開始以來ノ委員ハ下ノ諸氏ナリトス。(以下略)」
- 9) 林勇編 (1958) 明治大正小諸教育五十年史, 170-171.
- 10) 山本正江, 田中伸幸編 (2004) 牧野富太郎植物採集行動録 明治・大正篇. 高知県立牧野植物園, 144.
「8月2日: 晴。自宅出發, 信州小諸ニ向フ。午前出發上野ステーションニ至リ同駅ヲ十一時二十分ニ出發ス。午後六時過ぎ小諸ニ着シ, 正木校長, 高橋氏, 細井氏等迎フ。小諸館ニ投宿ス。3日: 浅間山登山。朝, 学校ニ會員集リ居リ其校ヘ行ク。會員ト共ニ撮影ス。出發, 浅間山ニ登ル。清水ニ少憩, 此前ヨリ雨来ル。上リテ浅間館ニ少憩, タニ近ク測候所ニ宿ス。高橋貞吉と共ニ宿ス。入浴シテ寝ニ就ク。新員 (空欄) 氏締切ニ無理シ呉ル 會員ハ其ノ上方ニアル火山館ニ宿ス。4日: 晴。浅間山頂ニ至リ, 而メ下山。晴天, 朝起用意ヲナシ火山館ニ至リ一場ノ講演ヲナス了テ, 山頂ニ向フテ上ル。噴火口ニ達ス火口内能ク見ユ噴烟ノ状亦能ク見ユ。上リシヨリ反対の側ニ下山シ測候所ニ至ル, 採品ヲ荷作り會員ト共ニ下山ス, 夜ニ入ル小諸館ニ宿ス, 校長正木直太郎氏来訪。5日: 午前中昨日の採品を始末ス。(以下略)」(牧野博士はこの後戸隠, 信濃町, 更埴を巡り, 15日軽井沢で途中下車, 再び高橋貞吉, 山崎林治氏らと交流, 採集も行っている。「16日午後十時頃歸ス。旅中スベテ無事身体健康ナリ。」p. 145)
- 11) 佐久教育会は, 南佐久教育会と北佐久教育会が昭和37年に統合して創立された。「佐久教育会会則集」(平成17年) 第1章総則第3条に「この会は, 會員の自主的活動を根幹とし, 會員相互の信頼と協力により職能の向上をはかり, 地域の教育を充実させ, 民主的文化国家の建設に貢献することを目的とする。」とその目的を規定し, 會員は, 「南佐久郡, 佐久市, 小諸市, 北佐久郡の各学校に在職する教職員並びに教育に関係ある者で, この会の主旨に賛同した者」となっている。